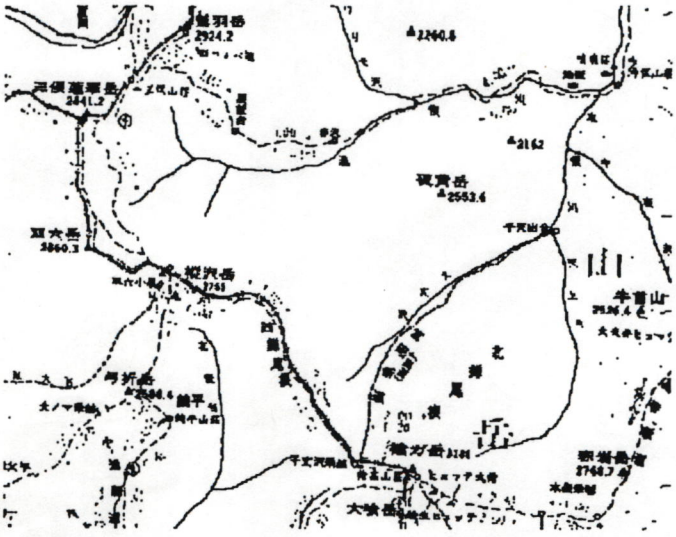
１９８３年　槍ケ岳

橘　泰博



登山日誌　　s．58.8.9～14

大町着(am5:45)後ﾀｸｼｰに分乗し七倉へ向かう。七倉登山補導所にて入山書を提出後いよいよ槍ｹ岳登山がｽﾀｰﾄしたが……

8月10日　晴れ

06:45　出発　道路は舗装されている。全員元気で雑談をしながらﾄﾝﾈﾙを抜け奥地へと向かう。

08:00　高瀬ﾀﾞﾑ　このﾀﾞﾑは発電量125万kw日本一の水力発電所があるそうな。記念撮影をしておこう(写真-1)。

08:20　昼食場所を求めてﾀﾞﾑをあとにして歩き出す。途中給水をし、行列は続く。ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰがどこかの山小屋に荷揚げをしていた。のせてほしいなぁ。

09:30　山道入口　道のまん中で雑炊(ｶﾆ)、駅弁、etc、食欲有り。

09:50　晴嵐荘に向け出発。

1時間ほど歩いて川原で休みまた歩くとそこに吊り橋がかっていた。(追加①)

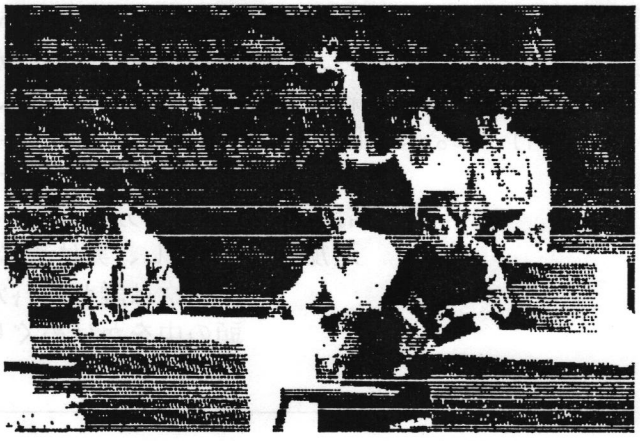


写真-1　高瀬ﾀﾞﾑにて。全員まだ元気。

追加①　橋さんはｴｴｶｯｺして持ってきた自分のｻﾞｯｸの担ぎにくさに耐えかね、森本君にｻﾞｯｸの交換を要求。後輩の彼は泣く泣く要求を受け入れ、あのﾊﾞｶでかい、背負いにくい、首のまわらんｻﾞｯｸを担ぐ。1時間の約束であったが、晴嵐荘まで苦痛の道は続いた。

12:35　晴嵐荘　宿泊客は我々のほかは数人しかいなかった。まずはﾋﾞｰﾙを飲みまょう。軽装にて散歩に行く。

13:40　露天風呂を求めて地獄へ向かう。誰かがﾍﾂを出していたのか雷が鳴りだしUﾀｰﾝ。

14:50　山荘に戻りﾐｰﾃｨﾝｸﾞ後、ﾙｰﾄをかえることになり早めに眠ることになった。明日の天気はどうかなとおもいつつ……。(追加②)

追加②　「全員で露天風呂に入ろう」とﾘｰﾀﾞｰが提案したが、辻川さん夫妻もちろん、体のある部分に劣等感を

持つ橋、吉村の各氏の反対にあい、４対３で廃案になった。なお、共感を持つ例の2人は皆の目を逃れる様に慰め合いながら露天風呂へと向かった。

20:00　消灯
　{memo}　所要時間　5時間50分

8月11日　晴れ
04:30　起床　外はまだうす暗い。予定のﾙｰﾄ(伊藤新道)が不通のためこんなに早く起きたのだぁ…。
05:00　2日目ｽﾀｰﾄ　ｼﾞｬﾝｸﾞﾙの中へ入って行く。
05:45　朝食のﾒﾆｭｰはﾒｼ、ﾂｹﾓﾉ、何か物足りないな。
06:15　後かたずけをしてまた歩け歩けとﾘｰﾀﾞｰが吠える。湯俣岳へ向け出発したのだが約40分で森本、約1時間で節ﾁｬﾝと続きﾀﾞｳﾝ、つぎはだれかなぁと考えつつ足を運んで行った。【訂正①　追加③】

訂正①　「約40分で森本」を「約10分で瀬戸さん」に。
追加③　しかし、実は次に誰がﾀﾞｳﾝするかという問題よりも、次は誰が節ﾁｬﾝのｻﾞｯｸを持つのかという問題が頭の中をかけめぐり、皆、次は自分でないことを望んだ。

08:15　湯俣岳に着いたようだ。ここでTea timeかなと思っていたがﾘｰﾀﾞｰが……。
09:00　ちょっとおやすみ
09:10　もう出発。途中ｶﾆのﾖｺﾊﾞｲをした。
10:00　昼食。この辺りは景色が良かった。ﾒﾆｭｰはﾒｼ、ｶﾝﾂﾞﾒ。写真を写したりして約1時間気分最高。ちょっと雲行きが怪しくなってきたなぁ。
11:00　南真砂岳に向け出発。まだ少し元気が残っているみたい。
11:35　南真砂岳山頂　ここからの眺めは良かった。残雪の所でｶﾝﾂﾞﾒを開けることになり全員ﾚｯﾂｺﾞｰ。
12:00　ｶﾝﾂﾞﾒ(ﾐｶﾝ)を冷やして食べた。(花畑を見ながら)
12:20　真砂岳に向かったが途中恐ろしいところがあった。何とか全員通ったが…。雨が降ってきた。なんか不安になってきた。
13:15　真砂岳山頂　ここで何が起こったかは…(ｶﾐﾅﾘ)…のとおりです。帰りたい、帰れない。【追加④】

追加④　しかし、森本君はｶﾐﾅﾘを恐がってはいなかった。全員が「自分にだけは落ちないで」と願っていたのに対し、彼はﾕｰｶﾝに立ち上がり、ｶﾐﾅﾘに向かって激怒していたことを付け加えておこう。

14:00　こんなところでながいは無用と歩き出す。焦っているのだが足がついて行かない。瀬戸さんがﾊﾞﾃﾃきた。30分歩き5分休憩のﾊﾟﾀｰﾝが続く。
15:40　水晶小屋が見えてきた。(助かったぁ)。ﾘｰﾀﾞｰの話ではあと30分、頑張るｿﾞ。
(追加⑤)

追加⑤　ﾘｰﾀﾞｰの話はあてにならず、30分の予定がはるかに1時間を超えた。それ以来ﾘｰﾀﾞｰへの不満はつのり、ﾘｰﾀﾞｰの口にする「予想時間」に対し、全員無言のまま心の中で「それの2倍」と呟いていた。

16:55　水晶小屋　ぼろ小屋のため初めの予定通り三俣山荘に向かうことに決定。
17:35　ﾜﾘﾓ岳　山荘までのﾙｰﾄが2つあった。ﾘｰﾀﾞｰをのぞくとみんなﾀﾞｳﾝぎみのため沢歩きをすることになった。
18:30　山荘が見えてきた。
19:10　やっとのぼりだ。しかしここで橘くんﾀﾞｳﾝ。ﾘｰﾀﾞｰと森本君が先に登っていく。次に吉村、瀬戸、橘、辻川夫妻とつづく。だんだん暗くなってきた。山荘までがひじょうに長く感じたよ(ほんま).
19:40　三俣山荘　各自感想を述べよう。
20:00　夕食どうでしたか…？
20:30　消灯。
{memo} 所要時間　14時間40分　おつかれ様でした

8月12日　晴れ
05:45　起床　天気は快晴、景色最高、体ｶﾞﾀｶﾞﾀ。
07:35　朝食後出発準備をして外に出た。遠くにきょういく槍ｹ岳がくっきり見える。記念写真を取りまずは双六へ向かう。
09:00　硫黄岳、赤岳を見ながら休憩。眼下にお花畑が広がっていた。
09:55　双六山荘　2日目のﾙｰﾄとは対象的でした。給水後出発。(追加⑥)

追加⑥　いよいよ恐れていたことが起こった。節ﾁｬﾝのﾀﾞｳﾝである。ｻﾞｯｸは最初森本君が持つことになり、そのつど交代でその役目を努めることにした。ｲﾔな予感を感じる。

11:25　硫黄乗越　昼食、ﾁｷﾝﾗｰﾒﾝおいしかったですね。(追加⑦)

追加⑦　予感的中。昼食が終っても誰も交代しようとは云わない。ﾘｰﾀﾞｰはそしらぬ顔で先頭を歩き、辻川さんのｻﾞｯｸは既に満杯。吉村君は「僕は山歩きにはむ

いていない」などとほざき、瀬戸さんは「もうあかん」を以前より連発。橘さんは「森本のｻﾞｯｸが一番小さく軽い」と決めつける始末。皆それぞれ「自分は持たない」と遠まわしに宣言していた。

12:15　おじいさんも出発したのでまけじにいこう。赤岳は何か気持ち悪い山だったかった。途中曇り空になってきた。雷くるなよ！　西鎌尾根は少し恐かった(ｶﾞｹｯﾌﾟﾁあり)。(追加⑧)

追加⑧　誰も何も云わない。

14:00　千丈沢乗越　いよいよ空が怪しくなってきた。もう1時間待ってくれ。しかし途中で雨が降り出し不安になってきた。ﾎﾟﾝﾁｮをきて急な登り坂を一気にとはいかずはって登ったのだ。(追加⑨)

追加⑨　当然、誰も云わない。

15:40　槍ｹ岳山荘　人が多い山荘でした。300名ぐらいいたのでは‥。みんな熟睡できましたか？　天気を気にしながら槍ｹ岳登山のため眠ることにする。
(追加⑩)

追加⑩　やっと「私が持ちます」と毅然とした態度で云ってくれたのは、節ﾁｬﾝであった。しかし既に山荘の中。「じゃかましい」と森本君は、辻川さんを除くふがいない男性登山家達に、激しい怒りを感じたのであった。森本君の目は悲しそうであった。

{memo}　所要時間　8時間5分

8月13日　晴れ
04:00　起床　御来光を見るため早起きをした。外はまだ暗いのに槍ｹ岳山頂に向かって早くも人の列が出来ていた。
04:35　我々も急ぎ山頂をめざす。山頂は人、人、人で満ﾊﾟｲのため下で日の出を待つことにした。約30分待たされ山頂に立つ。
06:15　無事下山。
08:00　朝食を済ませ写真をとり槍ｹ岳山荘を後にする。(写真-2)
09:00　千丈沢乗越　ここから奥丸山に向けお花畑を下って行くことになった。
10:25　瀬戸さん、すべってころんで負傷(いわく膝がｶﾞﾀｶﾞﾀや)。みんなひたすらｼﾞｬﾝｸﾞﾙを進む。(追加⑪)

追加⑪　ますます瀬戸さんの老化は進み、足はｶﾞｸｶﾞｸ、目はうつろ。歩く姿が痛々しかった。さて瀬戸さんの負傷は左手の薬指である。後にｴﾗｲ目に合うのは予測できなかったようであった。いまもそのﾊﾚはひかず、そのまま放置しているそうである。瀬戸さんが「どうでもええ」といつも云ってるとは小寺さんの話。

11:45　槍平分岐点　中年の人に出会う。
後すこしで槍平小屋だ。
12:55　槍平小屋　最後の昼食(弁当、ｵｼﾞﾔ、ｽｰﾌﾟ、ﾐｿｼﾙ、ｺｰﾋｰ、ｶﾝﾂﾞﾒ)。疲れが出てきた、もう歩きたくないですよ、ﾘｰﾀﾞｰ。
14:30　新穂高温泉に向けﾚｯﾂｺﾞｰ。
16:20　白出小屋　非常に蒸し暑い。ここからはｼﾞｬﾘ道。
17:10　近道にはいったが、このﾙｰﾄは看板に偽り有り(所要時間　25分)。
17:50　新穂高温泉ﾀｰﾐﾅﾙ着。

おつかれ様でした。来年も登りますか？
(追加⑫)

{memo}　所要時間　9時間50分

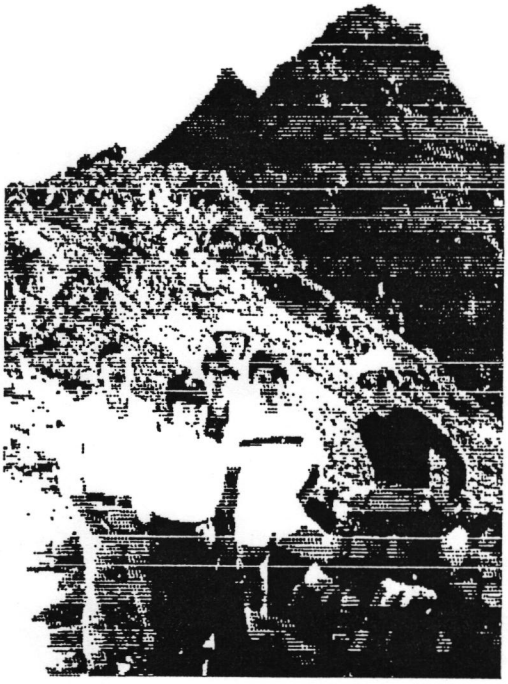


写真-2　槍ヶ岳穂先を後ろに。

追加⑫　「来年も山登りしますか」の次に、
「あたりまえや、秋にも登るで 」とﾘｰﾀﾞｰ。
「アホ！」とその他おおぜい。

参加者　谷端、瀬戸、橘、森本、吉村、辻川夫妻

以上

注）著者には申し訳ございませんが、日誌に不備な箇所や誤った記述等がありましたので、「追加・訂正」をさせていただきました。あしからず。

編集者